



萱中だより

《校訓》 礼儀 自主 勤労 協同
 三笠市立萱野中学校 校長 元木和芳
 三笠市萱野 192 番地 TEL 2-2308
 平成25年7月25日発行 第4号

一学期の終業式にあたって

校長 元木 和芳



本校は、1年間の授業日数208日（3年生は200日）を予定しています。1学期は、76日ありましたが、この短い期間に、様々な活動を通して子ども達が大きく成長してくれていることを強く感じています。**4月**～8名の個性豊かな1年生が入学。新入生歓迎会など2・3年生の先輩としての振る舞いに頼もしさを感じました。**5月**～旅行的行事（3年修学旅行、2年宿泊学習、1年見学旅行）。それぞれの学年の目的はありますが、日常生活の場を離れて、様々な経験を積みました。帰校したときの子どもたちは、ひとまわり大きく見えました。**6月**～小中合同運動会。中学生としての自尊心をもって、小学生から憧れる先輩として行動していました。小中一貫教育を進めている本校の良さが発揮されていたと思います。**7月**～小規模校ゆえに子ども達のそれぞれのニーズに応えることが難しい本校の部活動ですが、陸上部は、6月の中体連陸上をはじめ各種大会で自己記録を更新するなど大きな成果をあげました。バドミントン部は、競技として中学校から始めるのは、大きなハンデなのですが、精一杯試合に臨んでいました。勝つ喜びはもちろんですが、負けること、悔しさを感じることに、努力することの大切さを是非身をもって感じて欲しいと思いました。さて、25日間の夏休みに入ります。中学生として、1年生として、2年生として、3年生としてどのように過ごすのでしょうか。1学期を振り返り、今、自分が何をしなければならないのか、目標を定め、計画的に過ごしてほしいと思います。（これが一番難しいですね）そして何よりも、命を大切にしたいです。そして、2学期にまた一段と成長した子ども達と会えることを期待しています。本校では、生徒一人一人を成長させるために、さまざまな教育活動を展開してきました。小規模校の特長を活かし、一人ひとりの生徒に応じた指導に努めていますが、何よりも、保護者の皆様、地域の皆様と密接に連携し、子ども達の健やかな成長を目指していきたいと思っています。今後ともより一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



安全な夏休みを！

明日から待ちに待った夏休みです。生徒の皆さんは学校生活から離れ、家庭を中心とした生活になります。ご家庭でも有意義な生活を生徒ができるようご指導いただきたいです。また、家庭内でお子さんと話す時間や一緒に過ごす機会を多く作っていただけたらと思います。休み中の生活のきまりについては「**健康で規則正しい夏休みを！**」を配布しております。ご家庭での活用をお願いいたします。特に事故等ございましたら遠慮なく学校、または担任までご連絡ください。（学校 2-2308）

【8月の行事予定】

- #####
- 10(土) 萱岡地区子ども会盆踊り、夏まつり
花火大会
 - 13(火) 北海盆踊り～15日(木) 祭典指導
 - 20(火) 2学期始業式 ガラス拭き
クリーンアップ週間～23日 
 - 教育実習②～9/13【音楽・体育】
 - 22(木) 振興会研究部会④ 5時間授業
 - 26(月) 学校祭特別日課開始～9月5日 
 - 28(水) 1・2年学カテスト

熱闘中体連特集



7月2日、3日に行われた南空中体連の結果です。まずは羽球(バドミントン)部の結果から。女子団体戦個人戦、男子個人戦になんと、入部したての1年生を含む、全9名の選手が出場しました。結果は、女子団体戦では1回戦負けになったものの、個人Hさんが勝利し、一矢報いました。続く個人戦ではHさん、女子ダブルスK・Kペア、男子ダブルスでK・Kペアが見事2回戦に進みましたが、



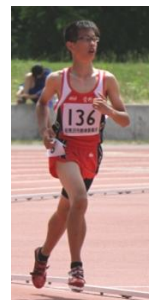
残念ながら全空知大会への出場はなりません。しかし、実力で堂々二日目への出場は立派で、指導にあたったK先生、T先生も目を細めていました。また、同2日、3日に行われた野球部です。今年は1年Oくんが参加、久しぶりの三結成になりました。1回戦対明成中(3-2)、2回戦対東光(1戦(1-0)、決勝は対豊戦(2-1)と見事優勝、全空知大会へすが監督の三中、I監督、見事な采配です。ところで、我らがO君とで応援が中心と思っておりましたが、どうもそうではなかったよう



笠・萱野合同野球部の1-0)、準決勝対栗山と駒を進めました。さです。1年生ということです。引率のT先生に



よると、「決勝戦で、なんとサード(!)を任せられ、そして最終回、アウトカウントあとひとつで勝利という場面で、あろうことか三塁に打球がっ!しかし、見事なフィールディングでしっかり打球をさばき、スリーアウト、優勝に貢献しました!」との報告でした。すごいぞ!そして全空知大会への切符を手に入れました。続く7月9日(火)の全空知大会は1回戦対戦相手は妹背牛中学校に5回コールド勝ち、準決勝両竜中にも5回コールド勝ち、全道への期待が高まりましたが・・・。健闘



及ばず3対1で滝川江陵中学校に敗れてしまいました。三中の先輩たちは最後の中体連でしたが、O君にとっては悔しいが、いい経験になったはず。この悔しさをこれからの練習、そして普通の生活に生かして欲しいと思います。なお、先駆けて開催された中体連陸上競技大会では、自己新記録



連発でしたが、残念ながら優勝はなく、全道大会への道は閉ざされたはず・・・でした。ところがなんと、その後に行われた通信陸上大会で2年K君が400mで優勝し、9月に室蘭市で行われる全道新人陸上競技大会への切符を手に入れました。

陸上競技部は全道大会への連続出場記録を更新しました。がんばったね!さわやかな初夏の中、全力を尽くした選手、サポートして下さった、先生方、保護者のみなさま、大変お疲れ

さまでした。////////////////////////////////////

教育実習を終えた先生からメッセージをいただきました!

7月5日から3週間、萱野中学校で英語の教育実習をさせていただきました。萱野中学校の生徒は素直で、優しく、毎日元気いっぱいでした。着任した日、緊張していた私を興味津々で迎えてくれました。全校生徒は20人しかいないからこそ、全員とコミュニケーションがとれて楽しかったです。みんな個性があり、夢があり、常に新しいことの発見でした。みんなに英語の楽しさを理解してもらい、英語を好きになってもらえば嬉しいです。3週間という短い期間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました。皆さんお元気で!



I could spend a great time with everyone!

特別支援教育について、ご存知ですか？

平成 25 年度は「特別支援教育」がスタートして 7 年目に入ります。平成 14 年に文科省が実施した調査において、知的発達に遅れはないものの、学習面や行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合が 6.3%であることが明らかになりました。これは 40 人学級では 1 学級に 2~3 人、30 人学級では同 2 名程度で、特別な支援が必要な児童生徒が在籍していることを示しています。そこで平成 15 年 3 月に同省から特別支援教育について以下の定義が示されました。

特別支援教育とは、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、その対象でなかった LD(学習障害)、AD/HD(注意欠陥多動性障害)、高機能自閉症を含めて障害のある児童生徒に対してその一人一人の教育的ニーズを把握し、当該児童生徒の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善、または克服するために適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものである。

つまり・・・

『特別支援教育』とは、学習や生活で困難さを抱えている生徒に対して、学校教育の中で積極的に支援を行うことです。病院や専門機関で判定を受けている、いないにかかわらず学習や生活に難しさを感じている生徒に対し、職員間で連携を取りながらその子に対して多方面から支えることです。言い換えると、その子の学習スタイルや生活の特徴にあった支援を行うことで、楽しく、あるいは効果的に学習を行ったり、学校生活を送れるようになり、将来の自立した人生に向けてのお手伝いをする取り組みといえます。

困難さ（困り感）とは・・・

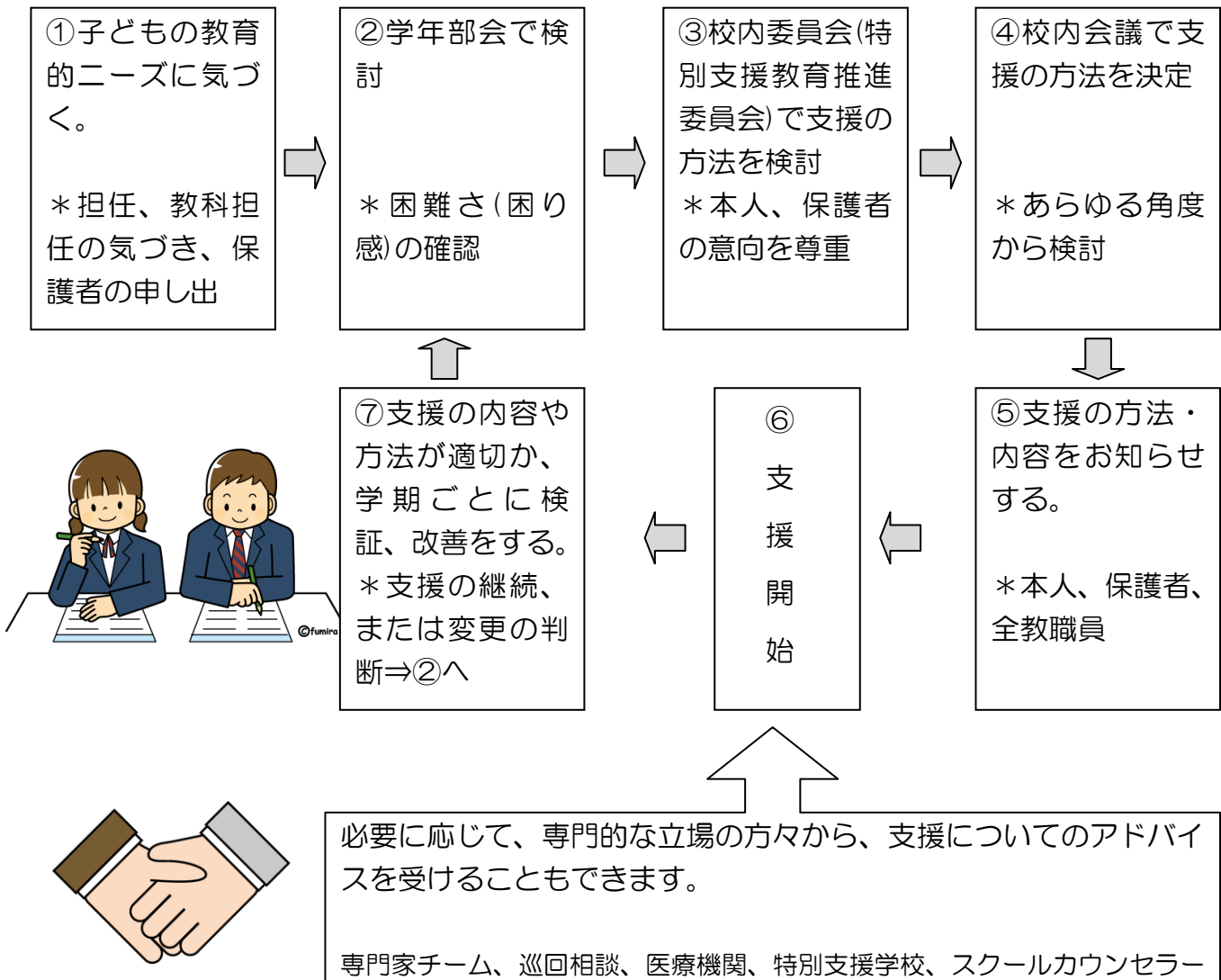
- 漢字だけ、計算だけ、音読だけ、というように極端に苦手なものがあり、努力してもなかなか改善されない。
- 簡単な暗算ができない。句読点が抜けたり、正しく打つことができない。
- じっとしてられない。集中して物事に取り組むことが苦手である。
- 順番を待つことや我慢することが苦手で、思ったことはすぐに実行しないと気が済まない。
- 好きなことが偏っていて、同じようなことを何度も繰り返す。
- 時間や予定の急な変更に対応できず、強い不安や不満を感じる。
- 人の気持ちを読み取ることが苦手で、友達とトラブルになることが多い。

このような状態は単にその子の努力不足が原因なわけではなく、本人の意思だけでは解決できず、だれよりも本人が困っています。

そこで本校では・・・

特に本校は少人数ということから、担任が中心となり、全職員で全校生徒の良さや難しさについての教育的ニーズの把握に努めています。そこから、適切な教科指導法やかかわり方を検討していきます。その際に、本人や保護者の方にもご意見を伺う場合もあります。

萱野中学校での支援体制は以下の通りです。



一口に支援といっても、担任ができるちょっとした工夫から、多くの人々の力を借りなければならぬものまで幅広い方法が考えられます。そうした中から、その子にあった支援方法を見つけるために、本校では話し合いの場を上記のように設けています。そして一人一人の子が自信を持って学習や学校生活に取り組んでいけるように学校全体で支援していきます。その際には保護者の方のご意向も十分にお伺いいたします。支援の内容が決まれば本人はもちろんご家庭での協力もお願いすることになります。また、外部の支援が必要となれば、学校が窓口となり、橋渡しをすることもできます。このように、たくさんの人々の知恵を借りて、一人一人にあった支援を行い、効果的な教育活動を展開していきます。

特に・・・

お子さんの気になることなどありましたら、小さなことでも、担任、または相談窓口までご連絡ください。